

点訳通信

87号

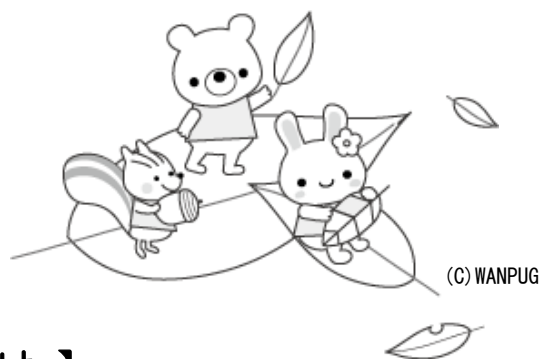
日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係
発行責任者 竹下 亘

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028 (点字製作係直通)

先日、古い点字の聖書を見せていただく機会がありました。表紙も中のページも色あせ、ざらついている、歴史を感じる資料でした。それもそのはず。1903年発行と書かれており、今から約110年前に作られたものでした。「せいしょ」も「せいしよ」と点訳されていて、当時の点字表記もうかがい知ることができました。

今私たちが点訳している図書も、何十年か後には点字文化の貴重な資料となっているのでしょうか…。

(点字製作係 おくのまり 奥野真里)



【 休館・開室のお知らせ 】

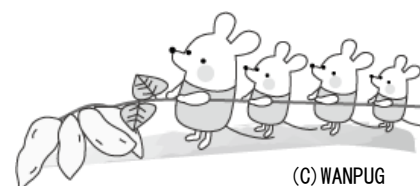
10月10日(土) 開室
10月17日(土) 休館(日本ライトハウス展)
11月 3日(火) 休館(文化の日)
12月23日(水) 休館(天皇誕生日)
12月26日(土)～1月5日(火)
ボランティア活動お休み
(年末は12月25日まで。年始は1月6日からです。)

●専門点訳講習会 「東洋医学コース」を19人が修了

去る5月12日～8月4日、第27回専門点訳講習会「東洋医学コース」を開催しました。東洋医学は現在でも視覚障害者の伝統ある職業の中で重視され、多数の方々が鍼・灸・あんまの技術を習得するために進学し、その後はプロとして社会で活躍されています。しかし彼らに必要とされる専門書は東洋医学の知識なしには点訳が難しく、点訳者の確保が課題となっています。当館ではこの専門点訳講習会を開催することで、できる限り支援していきたいと考えています。

今回の講習会は、元大阪府立視覚支援学校で理療科教員として長年勤務され、日本理療科教員連盟の事務局長を勤められていた阪本圭市（さかもと けいいち）先生にお願いしました。講習は陰陽五行の東洋医学の基礎から始まり、ときには実技を交え、わかりやすく学ぶことができ、東洋医学がぐっと身近に感じられる内容でした。19名の方が本講習会を修了。そのうち7人の方が東洋医学の点訳グループに加わり、早速活動を開始されました。この講習を受講した2人の方の感想を紹介します。

「東洋医学への誘い」について



点字製作ボランティア 待田 敏彦

「東洋医学への誘い」と題する講義は、その歴史・概要から始まり、人体の構造や疾病に関する東洋的な考え方、基本的診断術・治療方法等々、広範囲にわたり東洋医学の全般が網羅されました。その起源が約2千年前に遡る東洋医学には二大別される流派があり、中国北部の寒冷な黄河流域で成立・進化した物理療法（鍼・灸・按摩）と南部の温暖な揚子江流域での豊富な薬草類を利用した薬物治療（生薬・煎じ薬）とに分類され、それぞれの環境に起因する背景を示しているのは興味深いことです。講習はテキストに沿っての説明だけではなく、実技の一端に触れるために各種の治療道具を実際に手にしたり、按摩・指圧を体験する機会もありました。究極は本物のもぐさや鍼を使う実技でしたが、もぐさには点火しなかったし、鍼を打ったのは茄子だったから、受講生は熱い目・痛い目に合わずにすんだ！のです。

治療方法の内容はさておき、印象に残っている基本的な考え方があります。そのひとつは、東洋医学は本来人に備わっている回復・治癒力を助長するのがその基本であ

ることから、患者がこの治療を受ければ自分は治るんだ、この先生に任せたら安心なんだと自分からそう思い込むような医師になるのが大切だということです。併せて医師は治療に際して完璧を求めず、6割を目指す気持ちで患者に接するようにするというです。このように自分が持っている能力の全てを人前に出すことはなく、それでもなお周りの人に信頼してもらえることを目指すという考え方は、東洋医学の治療に限らず、私たちの日常生活のいろいろな場面でも大事なことを教えられたのだと感じました。

東洋医学専門点訳講習会を終了した受講生は、これから先、三療関係の点訳をする際に文章・文言を表面的に追うだけではなく、その内容や背景にある理由などを理解して点訳作業ができることとなります。このように、点訳の基本を改めて教えられた講習会でした。

面白く学んだ専門的な知識と心構え

点字製作ボランティア 瀧田 愛子

8月4日の講義が終了したとたん、強く感じたのは「さみしいなあ」ということでした。学生時代にも感じたことのない感情でした。これは、私自身が年齢を重ねてきたせいで生じる感傷的なもののせいだけではなく、阪本圭市先生の心のこもった講義のおかげだと思います。

講習会に参加させていただくと決めたものの、点訳のための漢字の読み方などを勉強するだけと考えていました。実際、配布されたテキストを開くと、まさに「漢字だらけ」でした。最初は読み仮名をふっていくのに必死でしたが、すぐに先生の話の面白さに引き込まれていきました。

この講習は「点訳のため」ですよね…と、何度か思ってしまうほど、専門的な知識や実技・心構えを、丁寧に教えてくださいました。本物の鍼を茄子に打つてみたり、昔使用されていた鍼やもぐさなどを見せていただいたりと、たいへん印象に残る実技も取り入れてくださいました。

12回の講習で東洋医学をどこまで理解できたかなどと、偉そうなことは言えません。ただ、陰陽五行の考え方や、人間がもともと持っている気の流れや、臓器の役割、経穴（ツボ）や指圧、漢方薬などについて知識を深めていくと、その範囲の広さに驚くとともに、なぜか懐か



「東洋医学コース」講習会の様子

しさも感じました。小さな子供だった頃、祖母が寒い日には首筋を温めてくれたり、葛湯を作ってくれたり、アロエを使ってやけどの治療をしてくれました。きっと、私の生活のすぐ近くに東洋医学は存在していたのだと思います。

最終日に教えていただいた、陶潜の『勸学』という詩。心に深く響きました。

今まさに勉学に励め、月日は待ってくれないという、ナマケモノの私には恐ろしく緊張感を強いるものですが、先生のお話を聞いていると、なぜか私にもできるかと思いついたのです。この心地良い緊張感をもって次に進んで行きたいと思っています。

最後に、この機会を与えていただいたこと、阪本先生にお会いできたことに、心から感謝します。ありがとうございました。

●校正勉強会報告

円滑な校正作業を行うために



(C) WANPUG

今年度の校正勉強会は7月10日、17日の2日間、校正作業の見直しを行いました。各曜日で校正のやり方に違いはあるのか、校正方法に問題点はないか、校正作業をより円滑に行うにはどうしたらよいか、などを話し合いました。

その中で、点訳の際に調べた漢字の読みや分かち書き、および1校正で出た指摘や疑問、検討された結果が、2校正者までうまく伝わっていないという問題点があげられました。2校正では、点訳者が調べたかどうか不明なため、調べ直しの作業に追われるケースも生じています。

点訳者の判断や意図、1校正での決定などを明確に2校正まで伝える方法を検討しました。

現在当館で扱っている図書は、点訳が難しい本も少なくありません。点訳に際しては調べるべきものも多く、何種類もの辞書をあったり、インターネットで検索したりしなければなりません。人名・地名・専門用語の読み方は何で調べるか。何通りも読み方がある漢字はどれを選ぶか、文脈によって使い分けるか。分かち書きはどうするか。また、複雑なレイアウトの本の見出しはどう取るか。あるいは、図・表・写真はどのように点訳するかといったことも考えなくてはなりません。

そうした点訳にあたって調査・検討したさまざまな内容を、点訳者から1校正者、2校正者まで、1冊の点訳書が完成するまでの製作に関わるすべての人が把握できるようにします。

1校正のペアの組み方や校正作業については、各曜日、グループによって違います

が、それぞれこれまで通りの方法で進めてください。

今後改めて校正で注意していただきたい点、特に今回の勉強会で課題にあげられた「調査表」の書き方を以下にあげますので、確認をお願いします。

○新たな「調査表」を活用してください

これまで記入していただいていた「調査表」と「校正表」を1本化し、「調査表」のみにしました。新しい「調査表」には1校正者の記入欄と2校正者の記入欄を設けましたので、点訳から2校正まで、この「調査表」を活用してください。

「調査表」には、点訳者が調べた読み方や分かれ書き、調べた出典などを書きます。また、相談・検討した内容や、校正者に伝えたい内容も書き込みます。

1校正者、2校正者も点訳者が作った「調査表」で確認しながら校正します。「調査表」の内容に関して疑問があれば、「調査表」に随時記入します。

「調査表」もしくは原本に、1校正者も名前を記入してください。

「調査表」用紙はメールボックスの上にあります。用紙のエクセルデータが必要な方は職員へお申し付けください。また、項目さえそろっていれば自分の書きやすい書式を作ってデータ入力していただいても結構です。

○2校正で大きな修正が出ないようにする

図や表が多く掲載されていたり、レイアウトが複雑な本を点訳する場合は、点訳する段階でグループ内で検討したり、職員と相談したりしてください。2校正で大幅な修正が出ることをないようにしましょう。

○1校正後にデータ修正をしたら、必ずもう一度見直す

1校正が点訳者に戻ってきたら、校正箇所を確認し、データ修正をします。そして、必ずもう一度見直しをしましょう。校正された箇所は修正できているか、読み方などは統一されているか、レイアウトを変更した時に、行がずれていないかなどを見直します。

それほど大きな修正がない場合は、パソコン画面での確認でも構いませんが、大きな修正がある場合や、まだ点訳に慣れていない場合などは、1校正者と一緒にパソコン画面を見ながら修正箇所を確認するか、点字データを再度墨点字印刷して確認するようにしてください。

○チェック事項の書き方

①点訳、または1校正で、辞書などで漢字の読みや分かれ書きを調べた場合は、調査内容、結果、調べた出典を調査表に記載します。合わせて、原本には「調査済み」の記号「◎」を該当箇所書き込みます。

- ②複数の読み方や処理の仕方がある中で点訳者がいずれかの方法を選択したこと（点訳者の希望）を伝える場合は、「マルキ」の記号「Ⓜ」を原本に書き、その内容を原本の余白か、「調査表」に書き込みます。
- ③どうしても調べがつかない場合は、「？」を原本に書き込みます。
- ④点字の間違いや表記などに関する校正は、墨点字プリントに赤字で書き込んだ上で、原本の該当箇所にも鉛筆で傍線を引いたり丸で囲むなどして、チェックを入れます。

お知らせ

●「点字編集システム」がWindows 10に対応

Windows 10にも対応した「点字編集システム」バージョン7が10月1日から発売されています。すでにバージョン6をお使いの方は無料でバージョンアップすることができますが、現在、バージョン4または5をお使いの方は、新たにご購入いただく必要があります（価格 6,328 円）。詳しくは、テクノツール株式会社のホームページをご覧ください。

テクノツールのURL <http://www.ttools.co.jp/index.html>

●「点訳ボランティア養成講習会」について

10月から開講を予定していた今年度の「点訳ボランティア養成講習会」は、来年1月からの開講となりました。実施要項も一部変更。詳細は10月末にホームページ等でご案内します。点訳ボランティア活動に関心をお持ちの方がお近くにいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。

●児童雑誌「アミ・ドゥ・ブライユ (Amis de Braille)」を製作・発行します

当館点字製作係では、この秋から、新たに児童向け点字雑誌「アミ・ドゥ・ブライユ」を製作・発行することになりました。

サイエンス、時事ニュースを始め、芸能、流行など娯楽情報や視覚障害児童に役立つ情報などを、点図も交えて点字で約100ページにまとめ、偶数月の15日に発行します。学習教材や小説ばかりでなく、娯楽や文化といった楽しい情報も点字で読んでほしい——。読者が「おもしろい」と思えるような紙面を目指します。

創刊号は10月。2018年2月までの全15回の発行予定で、特別支援学校や点字使用の児童が在籍する地域の学校の図書館に寄贈します。当館8階でも閲覧していただけますので、ぜひご覧ください。